

大分市地域まちづくりビジョン

佐賀関地域ビジョン会議 通信

第2号

発行：佐賀関地域ビジョン会議事務局

この通信は、地域ビジョン会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域ビジョン会議の目的

本市においても、今後、人口が減少に転じることが予測され、地域コミュニティの活性化や効率的な行政運営等々諸課題への対策が求められています。

これら課題の解決には、行政が市民の意向や地域の実情を的確に把握し、市政への反映に努めることが重要です。

このような中、市内13地域において、地域の代表者等で構成する『ビジョン会議』を設置し、議論を深めそれぞれの特性を踏まえた「地域まちづくりビジョン」としてご提言いただきます。

第2回佐賀関地域ビジョン会議



- 平成29年8月3日（木）10：00～
- 佐賀関支所
開会
- 一、会長あいさつ
- 二、議事
 - 1.第1回ビジョン会議の整理
 - ・委員発言要旨のまとめ
 - ・地域ビジョン会議ニュースの発行について
 - 2.これからのまちづくりについて
 - ・大分市立地適正化計画について
 - 3.グループワーク
- 三、その他
- 閉会

これからのまちづくりについて

事務局より地域まちづくりビジョン策定に向け参考となる都市計画について説明を行いました。

1. 佐賀関地区における都市計画について（都市計画マスタープランの概要）

本地区は、瀬戸内海国立公園や日豊海岸国立公園に代表される自然と、全国ブランド『関あじ・関さば』に代表される海の幸などが享受できます。

また、東九州地域と四国を結ぶ交通の要衝に位置することから、中心市街地や他の拠点地区との連携を密にするため、アクセスも含めた交通結節機能を強化すべき地区となっています。将来的には、豊かな自然環境と調和した都市近郊住宅地域として、さらに地域資源を活用したより魅力ある観光拠点としての役割が期待されている地区です。

2. 大分市立地適正化計画について

大分市では、昭和39年の新産業都市の指定後、急激な商工業の発展と人口増加にあわせて、市街地が拡大し、都市基盤施設の整備などを推進してきたことにより、拡散型の土地利用が進行してきました。そのため、今後、少子高齢化等の進展による人口減少及び人口密度の低下に伴い、公共交通の縮小、地域コミュニティ機能の低下等が予測されます。

高齢者や子育て世代にとっては、安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を行うこと、災害から人命を守ることなどを推進していくため、都市の基本構造の在り方の見直しを行うなどの集約型都市構造へと転換する必要があります。

以上のことから、都市機能や居住の誘導に関する具体的な方策の検討を行い、都市再生特別措置法第81条に基づく「立地適正化計画」を策定し、平成30年度末に公表予定です。



グループワークの流れ

【ステップ1】
重みづけ

【ステップ2】
ブレインストーミング

【ステップ3】
親和図作成

まちづくりのコンセプト
(理念) 成果発表

【ステップ1】重みづけ（地域が重点的に取り組む施策の傾向を読み取る）

委員の皆様には、2班に分かれていただき、大分市総合計画の6つの「基本的な政策」に対し、ふだん気になることや問題に思っている重点項目に一人5枚のシールを貼っていただきました。

《1班：関アジ班》 班長：伊藤委員より発表
まず「市民福祉の向上」の中では、子ども子育て支援の充実の部分が一番多くシールが貼られています。次に多いのが、「環境の保全」の欄の豊かな自然の保全と緑の創造。そして、もうひとつ多いのが「防災安全の確保」欄の防災・危機管理体制の確立になっています。あとは、「教育・文化の振興」の欄の中で、生きる力をはぐくむ学校教育の充実などが、多くシールが貼られているところです。



基本的な施策の体系	ポイント
① 健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり(市民福祉の向上)	
社会福祉の充実	
・地域福祉の推進	
・子ども・子育て支援の充実 ・高齢者福祉の充実 ・障がい者（児）福祉の充実	
・社会保障制度の充実	
健康の増進と医療体制の充実	
・健康づくりの推進	
・地域医療体制の充実	
人権尊重社会の形成	
・人権教育・啓発及び同和対策の推進	
・男女共同参画社会の実現	
地域コミュニティの活性化	
健全な消費生活の実現	
② 豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむまちづくり(教育・文化の振興)	
豊かな人間性の創造	
・生きる力をはぐくむ学校教育の充実	
・子どもたちの学びを支える教育環境の充実	
・社会教育の推進と生涯学習の振興	
個性豊かな文化・芸術の創造と発信	
スポーツの振興	
国際化の推進	
③ 安全・安心を身近に実感できるまちづくり(防災安全の確保)	
防災力の向上	
・防災・危機管理体制の確立	
・治山・治水対策の充実	
安全・安心な暮らしの確保	
・消防・救急体制の充実	
・交通安全対策の推進	
・防犯体制の強化	
④ にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくり(産業の振興)	
特色を生かした生産業の展開	
・工業の振興	
・農業の振興 ・林業の振興 ・水産業の振興	
活気ある流通・サービス業の展開	
・商業・サービス業の振興	
・流通拠点の整備	
安定した雇用の確保と勤労者福祉の充実	
魅力ある観光の振興	
⑤ 将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり(都市基盤の形成)	
快適な都市構造の形成と機能の充実	
・計画的な市街地の形成 ・交通体系の確立	
・地域情報化の推進	
安定した生活基盤の形成	
・水道の整備 ・下水道の整備	
・安全で快適な住宅の整備 ・公園・緑地の保全と活用	
⑥ 自然と共生する潤い豊かなまちづくり(環境の保全)	
豊かな自然の保全と緑の創造	
快適な生活環境の確立	
・廃棄物の適正処理 ・清潔で安全な生活環境の確立	
・公害の未然防止と環境保全 ・地球環境問題の取組	

【ポイントを多く入れた項目】

- 豊かな自然の保全と緑の創造・・・(6)
- 子ども・子育て支援の充実・高齢者福祉の充実・障がい者（児）福祉の充実・・・(6)
- 防災・危機管理体制の確立・・・(5)
- 生きる力をはぐくむ学校教育の充実・・・(4)
- 商業・サービス業の振興・・・(3)

《2班：幸いチーム》 班長：稲生委員より発表
「幸いチーム」のポイントは、子どもや高齢者福祉に関係する項目に多くなっているところです。1班と大きく違うのは、「教育・文化の振興」の部分で、2班は子どもたちの学びを支える教育環境の充実が多くシールが貼られています。それから、観光の振興や計画的な市街地の形成・交通体系の確立などが1班に比べて多くなっています。委員の願っている思い、それから海に囲まれた自然環境豊かなサービス業を大事にしたいと思っているのかなと考えました。

【ポイントの多く入った項目】

- 子ども・子育て支援の充実・高齢者福祉の充実・障がい者（児）福祉の充実・・・(5)
- 子どもたちの学びを支える教育環境の充実・・・(4)
- 魅力ある観光の振興・・・(4)
- 計画的な市街地の形成・交通体系の確立・・・(4)
- 豊かな自然の保全と緑の創造・・・(4)



【ステップ2】ブレインストーミング（思いついた地域の魅力や課題を書き込む）

【ステップ3】親和図作成（意見を分野ごとに整理）

各班で、地域の魅力や課題をポストイットに書き込み、共通点を施策単位でまとめました。

《1班：関アジ班》

- 福祉 「子ども・高齢者にやさしい便利なマチ」・・・(5)
 - ・子育て世代が住みやすい地域に・日用品の買物場所の確保・保育園等の充実を図り、子育てがやり易い環境づくり・高齢者の交通手段の確保 など
- 教育・文化 「誰でも交流できるマチづくり」・・・(5)
 - ・神崎PTAの参加が得られない・外部の子どもが自然教育を学べる施設を
 - ・生活が優先になって子どもは先生まかせになっている など
- 防災 「地域は地域で守る！」・・・(8)
 - ・防災士とのコミュニケーション不足・消防団に入る人がいない・空き家などが多い、危険・子育ての中で通学道の整備・災害時のライフライン（水、電気、ガス等）の確保・伊方原発が近いので不安・消防関係の充実を図る など
- 産業 「魅力ある観光づくり」・・・(14)
 - ・早吸日女神社のアピール（観光資源として）・観光客向けの駐車場整備・観光客が買い物、食事を楽しめる集積地がない・海を活かした観光がない・関サバ、関アジをいかした土産品、食品の開発・漁業者の育成・サイクリングロードも含め佐賀関地区の人の移動がスムーズに出来るように・農業の後継者がいない など
- 都市基盤 「幸崎駅を中心に！」・・・(9)
 - ・神崎 空き地が多くなってきている・交通の便が悪い・幸崎駅の駐車場を整備してもらいたい・幸崎駅から佐賀関を周る交通機関の充実 など
- 環境 「山と海を後世に！」・・・(5)
 - ・自然の魚を大事に育てる計画・山と海に恵まれた良い環境の維持・関崎一周道路の整備・神崎 山からの景観の維持を・風車（発電）の乱開発、土地の乱用 など



《2班：幸いチーム》

- 福祉 「在宅高齢者が安心して暮らせる」・・・(8)
 - ・1人暮らし高齢者のフォローを地域全体で支える・地域自治と市民協力 在宅高齢者の支え・少子化対策・高齢者の交通確保 など
- 教育・文化 「子どもに地域文化と伝統を传承」・・・(5)
 - ・地域内外の交流を盛んに・子どもの地域行事への参加・子ども達との合宿体験（閉口跡利用）・高齢者の心の充実を・旧大志生木小の有効活用を など
- 防災 「津波（地震）に強いまち」・・・(7)
 - ・住宅のガケ崩れ対策・高校跡地を避難場所に・自然災害に備え、地域コミュニティを活性化・通学路の安全対策・空家対策と道路の確保・防災士の意識の向上 他
- 産業 「海と山を活かした産業開発」・・・(9)
 - ・観光開発・退職者の仕事の確保・防災の観点から林業の整備・川を活かす（キャンプ場）・ミカン農家の栽培意欲がほしい・食品を含む工業集積をすすめること など
- 都市基盤 「幸崎駅を中心とした整備」・・・(9)
 - ・197号線の早期完成・地域交通を便利に・定住人口を増やす・駅までのアクセス強化・交通弱者の救済 高齢者の足（病院、買物）と楽しみの確保・駅周辺に駐車場を など
- 環境 「山・川・海の再生」・・・(5)
 - ・イノシシの害から里山を守る・美しい海、海辺を保存・観光振興とは別に豊かな自然の保全を！・川の浄化のための下水道の整備 など



まちづくりのコンセプト（理念） 成果発表

それぞれの導いたコンセプト(理念)を班毎に成果発表を行いました。

《1班：関アジ班》

コンセプト：子育てにやさしい住んでみたい行ってみたい佐賀関 ～自然・景観豊かな～



「福祉」では、子育て世代が住みやすい地域とか、福祉の充実を図るとか、そういったことも含めて「子ども・高齢者に優しい便利なまち」、「教育文化」では、行事を行ってもPTAの方の参加が少ないなどの意見から、「誰でも交流できるまちづくり」というキャッチフレーズにしました。「防災安全」は、消防士や防災士、空家問題などから「地域は地域で守る!」というキャッチフレーズになりました。「産業」は、観光面について特に多かったので「魅力ある観光づくり」、「都市基盤」で「幸崎駅を中心に!」というキャッチフレーズになりました。「環境」は、佐賀関は海と山に囲まれて、もう十分に魅力ある自然環境を後世に残さなければいけないということで、「山と海を後世に!」となりました。これらをまとめまして、「子育てにやさしい住んでみたい行ってみたい佐賀関～自然・景観豊かな～」というコンセプトになりました。



《2班：幸いチーム》

コンセプト：来てよし、住んでよし、美しい佐賀関



だんだんと高齢化が進む中で、自分達のみだけではどうしてもなくなり、積極的に外部から人を呼び込んで発展していきたいということで、コンセプトを「来てよし、住んでよし、美しい佐賀関」にしました。「来てよし」というのは、佐賀関には、いろいろな産業があり、きれいな自然環境があるということで、「住んでよし」は、住んでいる人は福祉が非常に充実していて、自然災害が非常に少ないということで、それから、山川や田んぼなどの緑が多いということで、このようなコンセプトになりました。

